

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎県宮崎市大塚台東1丁目1番地1		
自己評価作成日	平成25年1月4日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action_kouhou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=4590100493-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で開設から二年がたち、職員のチームワークも少しずつできてきており、お互いにアイデアを出したり注意し合えるような環境で業務を行うことができるようになって、統一したケアができた。また、入居者様一人ひとりの「できること」「できないこと」を見極め、職員全員が自立支援に向けたケアに取り組んでいる。地域との関わりも増えてきており、近所を散歩したり、近くのスーパーに買い物に出ると、声をかけていただいたりしている。昨年11月に自施設では初めての看取り介護を行うことができた。ご家族からの強い希望に答えたい、最期まで穏やかに過ごしていただきたいという想いで、職員全員が一丸となってケアに取り組んだ。主治医やご家族と何度も話し合いを重ね、最期は入居者も職員も全員でお見送りをすることができた。初めての取り組みだったが、職員全員が同じ気持ちでケアにあたった結果、家族にも感謝され、スタッフも納得のいく素晴らしい看取り介護を行うことができ、大きな収穫を得ることができた。今後も職員全員で取り組む姿勢を大切に、ケアの質の向上に努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は利用者からお母さんと呼ばれ、「ここは私の期待を裏切らないし、とても大切にしてもらっている」と絶賛の声があがっているホームである。利用者の日常生活の世話や残存能力を生かし、朝のテレビ体操・立位訓練・散歩・料理や家事を共にすることで、安心・安定感をもたらし、安らぎや楽しみのある支援を行っている。運営者、管理者、職員が同一線上で話し合いと研さんを行い、情報を共有し、最良のケアを提供できるよう職員同士のいい人間関係を保ち、チームワークを発揮している。また、利用者のあらゆる場面で、本人の過去から現在までの暮らしのあり方を最大限に生かす支援と、利用者の状態の安定とその人らしさの回復を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内の玄関や事務室、ホール内の掲示板、職員の目につきやすい場所に掲げ、意識しながら業務を行うようしている。	理念を全職員で共有し、利用者の生活歴等を尊重して、行きたい場所、やりたいことなどを日々の実践につなげている。また、利用者から学んだ物を大切にする心や礼節もケアの実践に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板の受け渡しを頻繁に行っている。また、散歩の時やスーパーへの買物の際に、地域の方と気軽に会話ができるような環境作りを行っている。	日ごろから、地域の老人会・地域住民や小学生と交流したり、ホームの行事にも地域住民に参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護教室に招いて頂き、地域の高齢者を対象に、施設の紹介、認知症についての話をさせていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、施設の近況や入居者の状況を報告し、また、地域の方からの意見を聞くように努めている。	出席者の自治会長に、ホーム前の溝が危険と相談したところ、迅速な対応をしてもらうことができたなど、さまざまな意見を検討して、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治会に加入していることもあり、地域の方との連携も少しずつではあるが、密になってきている。また、運営推進会議には、自治会長さんや民生委員の方には必ずお声かけをし、協力関係が築けるよう努めている。	市の担当者に、介護保険や運営について、密に電話等をして相談し、連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はもちろん、ベッド柵も最低限にするなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内外部の研修を行い、会議等でも身体拘束について、職員の理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を行い、言葉での虐待もあることを学ぶ機会を設け、日ごろから職員同士でも言葉づかいを注意しあえるような環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、昨年リーダー研修を受講し、職場内実習の課題に自立支援をあげ、職場内の勉強会を行い、自立支援のケアを職員全体で取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を十分に説明したうえで、同意を頂いている。不明な点は、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場ではもちろんのこと、日々の生活の中で、入居者様からの要望を聞くようにしている。また、面会時や担当者会議の場で、ご家族から気軽に意見・要望を聞けるような環境作りに取り組んでいる。	年2回のホーム便り、日ごろの電話連絡、介護計画作成時、年賀状や暑中見舞いなどでホームでの生活状況を知らせたり、来訪時などに意思の疎通を図り、出た意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、職員とのコミュニケーションを図っており、職員からの提案や意見を取り入れるように心がけている。	運営者や管理者は、常に職員の意見を大切にしているので、職員は働きがいのあるホームだと感じている。職員から洗濯物干し場と夏の日差しよけが必要という意見が出て、2か所にサンルーフが設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎日職場を訪れ、職場状況を把握し、労働条件を整え、やりがいを持って働ける職場環境を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人ひとりに合った研修を受ける機会を確保し、向上心を持って働ける取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報や意見交換をする機会を作り、よりよいサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時のサービス担当者やケアマネージャーからの状況も確認し、サービス内容が継続できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の状況や入所までの経過を十分に聞き取り、途中の新たな要望も言っていただくような職員の雰囲気を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、十分にアセスメントを行っている。また、本人、家族の要望を聞き、ホームのサービス内容も合わせて説明してる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望があれば、洗濯物たたみや台所に立っていただくなどの配慮をしている。また、職員も一緒にゆっくりとお茶を飲んだり、入居者様の安心と安定感を生み出すような環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、入居者様と家族水入らずで過ごせるよう、居室にお茶をお運びしたりしている。また、ご家族から、何でも話していただけるような環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力もあり、お正月やお盆に自宅へ帰られ、身内と過ごされたり、近所の方が散歩の途中にホームに立ち寄ってくださったりして、入所前の付き合いが継続されている。	本人のこれまでの暮らしを尊重した支援に努め、利用者の知人などの来訪時は、おもてなしの心を大切にしている。家族の協力もあり、行きつけの美容室、病院に家族や職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の中で、バイタル・配茶などの際、必ず全員に声掛けし、入居者様同士誘い合いながら来られる。また、車椅子の方の下膳を手伝ってくださったり、支え合う姿がみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されて、入院された方のお見舞いに職員数名で出向いたりして、退所後も関係を続けている。また、ご家族にも退所後も相談事があるときには、いつでも相談を受けることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族より、好きなことを聞いたり、本人の行動観察により意向を把握している。また、職員間で情報を伝え合っている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を使用し、言葉で表せない利用者には表情でくみ取り、把握に努めている。夜間、頻尿の利用者に対し、原因は暖まらないために頻尿が続いているのではと、電気毛布を購入してもらったところ、改善されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネジャーさんから、以前の情報を頂いたり、本人やご家族からの情報も必ずとるようにしている。なじみの物や写真などを持ち込んでもらったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	退所されて、入院された方のお見舞いに職員数名で出向いたりして、退所後も関係を続けている。また、ご家族にも退所後も相談事があるときには、いつでも相談を受けることを伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に気軽に意見交換ができるような環境作りに努めたり、意見箱の設置、また、職員同士のアイデアなども取り入れながら、見直しを行っている。	本人の意向、家族や職員の意見などは、カンファレンスや職員会議で出し合い、それらを反映した介護計画になっている。モニタリング、定期的な見直しを行い、現状に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤・日勤の記録を色分けして、職員がわかりやすいようにしている。日々の状況に変化がある時は、必ず口頭で情報を伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は、業務優先にならないように、その日の入居者様の状況に合わせて、臨機応変に柔軟なサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩の途中で、地域の方と挨拶を交わしたり、近所のスーパーへ買い物に出かけたり、美容室の利用などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで提携するかかりつけ医院以外でも、本人・家族の希望する病院受診形態を実現し、本人が安心して医療を受けられるように支援している。	掛かりつけ医の受診は家族が行うが、都合が悪い時は、職員が同行している。また、往診や訪問看護も受け、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中での健康面の変化や気づきは、早急に看護師に連絡を取り、適切な処置が行えるようにしている。必要時には、速やかに往診依頼、又は受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を共有することで、入院中でも本人・家族が安心して治療に専念できるように努めている。退院が決まると、直ちに病院に赴き、情報の収集に努め、安心してホームで生活できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化や終末期ケアの説明をし、同意を頂いている。11月に終末期ケアを行ったが、半年前より医師・看護師・ケアマネと協議を重ね、家族の思いを何度も確認しながら職員全員で支援を行った。	主治医、家族、管理者、全職員で話し合い、方針を統一して連携を深め、共有している。昨年、家族の強い要望であった看とり介護を行い、全職員が一丸となり、同じ気持ちでケアに取り組み、家族に感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議において、誤嚥などの身近な事故への対応を確認している。また、ターミナルケアへ臨むにあたり、考えられる急変時の対応について、看護師から指導を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会長さんに、避難訓練に参加していただき、地区の避難場所の確認を行ったりしながら、協力体制を図っている。	年2回、災害訓練を行い、家族や自治会長の参加がある。災害時の天候や昼夜を想定した具体的な避難策を検討したり、適切な避難路や場所など、必要物品の確保をするまでには至っていない。	さらに地域と協力し、利用者の状況、ホームの構造、車いすの操作などを体験してもらう機会をつくってほしい。災害に備え、安全な避難場所、食料や飲料、トイレ、寒さをしのげる物品等の確保に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室のドアを閉める習慣を身につけたり、プライバシーの確保に努めている。また、職員間で言葉づかいを注意し合えるような環境を作っている。	利用者の尊厳と権利を守ることについて、職員会議等で伝えている。利用者の尊厳を守り通すことが難しく、全職員が誇りやプライバシーの確保について、具体的に確認するまでには至っていない。	キーワードは尊厳なので、生活歴を大事にした声かけや近づきすぎる言葉かけに注意して、利用者の尊厳ある姿を支援するように、さらに全職員でスキルアップしてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が業務的に何でも決めてしまわないように、必ず入居者様の意向を聞いてからケアするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のその日の体調や気分を把握するよう心掛けており、それに合わせて、本人に合った過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の了解により美容室に行かれたり、時にはマニキュアを塗られたりしている。その日の服装も、本人と話しながら選んで決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたいものや昔食べていた物を聞いたり、時には誕生日ケーキと一緒に作ったり、ジャムや干し柿を作ったりした。	ほのぼのとした雰囲気の中、利用者と職員が双方向で会話をしながら食事を楽しんでいる。一人ひとりの好みを聞いたり、利用者と職員と一緒に準備や片づけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を確保するため、湯呑みで量を計り、食事・おやつ時・検温時と必ず飲むように勧めている。また、薄味でバランスよくとれるように、調理の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしながら、なぜするのか、口腔ケアの大事さを伝えながらケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをしっかりと把握しながら、車椅子の方もトイレ内では手すりにつかまって立っていただいたり、日中は布パンツを使用し、トイレでの排泄ができるよう支援している。	排せつチェックを行い、日中はリハビリパンツからパンツに変えたり、車いすから便器に移乗する際は、立位訓練を兼ねた生活リハビリを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給、食物繊維の摂取に努めながら毎日の運動を促すことで、自然排便を心掛けている。それでも排便がみられない時は、看護師・主治医と相談しながら、下剤の調整投与を行い、排便を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	仲のいい入居者様同士で浴槽に入れるように配慮したり、お湯の温度などもその人の好みに合わせたり、時には入浴剤を入れたりして、入浴がくつろぎの時間になるように支援している。	週3回が入浴日であるが、その日の気分や体調に合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりその方に合った体感を、心地よく安眠できるよう、冷暖房のセット温度や時間を変えたり、リネンの準備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳、薬局で出される薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や塗り絵、時には一緒に台所に立っておやつ作りをしたり、その人に合った気分転換や役割を探しながらケアしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、近所を散歩に出かけたり、スーパーに出かけたりしている。また、ご家族の協力もあって自宅に帰られたり、外食に出られたりしている。	美容室やよく手紙を書いている利用者と手紙をポストに投函しに出かけたり、家族の協力の下、外出や社会福祉協議会のバス、運営者の車等を利用して、ドライブや花見などに出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される入居者様には、財布ごとご自分で管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力のもと、毎日定時に電話が来る方もおられる。希望時に家族と連絡し、納得いこう会話していただく。手紙を書かれる方と一緒に、ポストまで付き添ったりして、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、開放的で日中は日当たりもよく、入居者が居心地よく過ごせるように心がけている。季節の花を飾ったり、ひな人形、鯉幟、クリスマスツリーなど、季節感を取り入れながら生活できるように支援している。	窓からは四季の風景が見られ、共用の空間には、台所のいい匂いがしている。電話の子機が目につきやすい場所に置かれたり、利用者の作品(つまみ絵細工)などが掲示されており、居心地のよさや心身の活力を引き出す場になるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせる時間以外は、声掛けをして新聞折りや編み物をしていただいている。気の合う入居者様同士で、居室でお菓子を食べたり、一緒に浴槽につかって話している光景もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で好みの番組が見たい方は、テレビを持ち込んで楽しまれ、仏壇や写真、家具も家族と相談の上、配置している。	家族の写真、季節の花の鉢物、仏壇や使い慣れたたんす、カレンダーなどが持ち込まれている。居室でテレビを見て楽しんでいる利用者もおり、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの理解力、判断力、能力に応じ、お手伝いや体操を初めとする運動を行っている。職員同士、ホールを離れる際には、必ず声を掛け合い、常に見守りができるように心掛けている。		